

1. 試験目的 防除効果確認。
2. 対象病害虫 ナシマルカイガラムシ
3. 試験内容
- (1)実施場所 一野渡 (2)実施農家 山下 大地
- (3)実施支店 弘前東支店 (4)担当者 三浦 湧太
- (5)概要
- 作物名 りんご 品種 金星, ジョナ
- 樹 齢 20年 栽植密度 7 m × 7 m 20本/10a
- 開花日 4月27日 収穫始め 10月上旬～
- (6)試験構成
試験面積 20 a (試験区 10 a 対照区 10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
6月20日	コルト(顆粒水)	3,000	400 ^{リットル}		ラビライト(水)	500	400 ^{リットル}
	ラビライト(水)	500	400 ^{リットル}		オリオン(水)	1,000	400 ^{リットル}
	オリオン(水)	1,000	400 ^{リットル}		コルト(顆粒水)	6,000	400 ^{リットル}
	カルマッチ	770	400 ^{リットル}		カルマッチ	770	400 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
ナシマルカイガラムシ	多い	少ない	多い

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

昨年は果実被害果がかなり見られてたが今年は試験区の被害果がかなり少なかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	3	4

(2)評価の理由

散布効果 問題なし

実用性 有(マシン油50倍との体系防除が効果的だと思う)

使いやすさ 問題なし

(3)その他特記事項

試験区、対照区ともにマシン油50倍散布を3月25日に散布。

1. 試験目的 防除効果確認。
2. 対象病害虫 ナシマルカイガラムシ
3. 試験内容
- (1)実施場所 弘前市如来瀬 (2)実施農家 西澤 幸清
- (3)実施支店 岩木支店 (4)担当者 葛西 隆芳
- (5)概要
- 作物名 りんご 品 種 ふじ
- 樹 齢 30年 栽植密度 7.5 m × 7.5 m 18 本/10a
- 開 花 日 4月27日 収穫始め
- (6)試験構成
試験面積 20 a (試験区 10 a 対照区 10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
6月17日	コルト顆粒水和剤	3,000	400 ^{リットル}				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
ナシマルカイガラムシ	多い	少ない	多い

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

昨年 비해被害が少ないため効果はあるのではないか。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	3	4

(2)評価の理由

散布効果 あり

実用性 あり

使いやすさ 普通

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認
2. 対象病害虫 黒星病、(モニリア病)、(腐らん病)
3. 試験内容
- (1)実施場所 藤崎町林崎 (2)実施農家 葛西 健人
- (3)実施支店 藤崎支店 (4)担当者 佐藤 琉乃介
- (5)概要
- 作物名 りんご 品種 ふじ
- 樹 齢 15年 栽植密度 4 m × 5 m 50 本/10a
- 開花日 4月28日 収穫始め

- (6)試験構成
試験面積 55 a (試験区 30 a 対照区 25 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
4月20日	マシン油(乳)	200	300 ^{リットル}	4月20日	マシン油(乳)	200	300 ^{リットル}
	バリアード(顆水)	4,000	300 ^{リットル}		バリアード(顆水)	4,000	300 ^{リットル}
	ベルコート(水)	1,000	300 ^{リットル}		ペフラン(液)	1,000	300 ^{リットル}
	トップジンM(水)	1,000	300 ^{リットル}				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
黒星病	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

対象区と差はなかった

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対照区と同等のため。

実用性 対照区と同等のため。

使いやすさ 対照区と同等のため。

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認
2. 対象病害虫 黒星病、(モニリア病)、(腐らん病)
3. 試験内容
- (1)実施場所 三和 (2)実施農家 齊藤 美樹
- (3)実施支店 弘前北 (4)担当者 斎藤 剛志
- (5)概要
- 作物名 りんご 品 種 ふじ
- 樹 齢 15年 栽植密度 6 m × 6 m 28 本/10a
- 開 花 日 4月29日 収穫始め 11月11日

- (6)試験構成
- 試験面積 40 a (試験区 20 a 対照区 20 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
4月18日	精製マシン油	200	300 ^{リットル}	4月18日	精製マシン油	200	300 ^{リットル}
	ベルコート(水)	1,000	300 ^{リットル}		ベフラン(液)	1,000	300 ^{リットル}
	トップジンM(水)	1,000	300 ^{リットル}		アプロード(F)	1,000	300 ^{リットル}
	アプロード(F)	1,000	300 ^{リットル}				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
黒星病	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

対照区に比べ、混用の手間が少し増える

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 同等

実用性 同等

使いやすさ 同等

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認
2. 対象病害虫 黒星病、(モニリア病)、(腐らん病)
3. 試験内容
- (1)実施場所 原ヶ平 (2)実施農家 小林 政貴
- (3)実施支店 弘前東支店 (4)担当者 三浦 湧太
- (5)概要
- 作物名 りんご 品種 早生ふじ
- 樹 齢 15年 栽植密度 5 m × 3 m 67 本/10a
- 開 花 日 4月28日 収穫始め 10月3日
- (6)試験構成
試験面積 20 a (試験区 10 a 対照区 10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
4月18日	ベルコート(水)	1,000	350 ^{リットル}	4月18日	ベフラン(液)	1,000	350 ^{リットル}
	トップジン(水)	1,000	350 ^{リットル}		マシン油	200	350 ^{リットル}
	マシン油	200	350 ^{リットル}		バリアード(顆粒水)	4,000	350 ^{リットル}
	バリアード(顆粒水)	4,000	350 ^{リットル}				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
黒星病	無	無	無
モニリア病	無	無	無
ふらん病	普通	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

散布効果は問題ないが、ベフラン1剤に対して2剤混用するので1手間増える

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	2	3

(2)評価の理由

散布効果 問題なし

実用性 有

使いやすさ 今まで1剤でよかった為

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認
2. 対象病害虫 黒星病、(モニリア病)、(腐らん病)
3. 試験内容
- (1)実施場所 弘前市悪戸 (2)実施農家 山形 弘晃
- (3)実施支店 弘前南支店 (4)担当者 今 修平
- (5)概要
- 作物名 りんご 品種 ふじ
- 樹 齢 15年 栽植密度 5 m × 3 m 67 本/10a
- 開花日 4月27日 収穫始め

- (6)試験構成
- 試験面積 20 a (試験区 10 a 対照区 10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
4月19日	ハーベストオイル	200	250 ^{リットル}	4月19日	ハーベストオイル	200	250 ^{リットル}
"	バリアード顆粒水和剤	4,000	"	"	バリアード顆粒水和剤	4,000	"
"	アプロードFL	1,000	"	"	アプロードFL	1,000	"
"	ベルコート水和剤	1,000	"	"	ベフラン液剤	1,000	"
"	トップジンM水和剤	1,000	"				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
黒星病	無	無	無
モニリア病	無	無	無
腐らん病	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

問題なく使用できた。ベフランの代わりが2剤混用なので、一手間多くなる。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	2	3

(2)評価の理由

散布効果 対照剤と同等

実用性 対照剤の代替えとして使用できる。

使いやすさ 対照剤1剤から2剤に増えるので一手間増える。

(3)その他特記事項

ベフラン液剤の代替試験。トップジンM水和剤と混用での検討。

1. 試験目的 防除効果の確認
2. 対象病害虫 腐らん病
3. 試験内容
- (1)実施場所 大森 (2)実施農家 三上 義寛
- (3)実施支店 弘前北 (4)担当者 斎藤 剛志
- (5)概要
- 作物名 りんご 品種 ふじ
- 樹 齢 30年 栽植密度 7 m × 7 m 20 本/10a
- 開花日 4月28日 収穫始め 11月5日

- (6)試験構成
- 試験面積 20 a (試験区 10 a 対照区 10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
4月18日	精製マシン油	200	300 ^{リットル}	4月18日	精製マシン油	200	300 ^{リットル}
	ベンレート(水)	2,000	300 ^{リットル}		ペフラン(液)	1,000	300 ^{リットル}
	チオノック(F)	500	300 ^{リットル}				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
腐らん病	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

差は感じられなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 同等

実用性 同等

使いやすさ 同等

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認
2. 対象病害虫 腐らん病
3. 試験内容
- (1)実施場所 大鰐町駒木 (2)実施農家 駒木生産共防
- (3)実施支店 大鰐支店 (4)担当者 古川 賢一
- (5)概要
- 作物名 りんご 品 種 ふじ
- 樹 齢 20年 栽植密度 5 m × 3 m 67 本/10a
- 開 花 日 4月30日 収穫始め 10月下旬頃

(6)試験構成

試験面積 40 a (試験区 20 a 対照区 20 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
4月22日	精製マシン油	200	300 ^{リットル}	4月22日	精製マシン油	200	300 ^{リットル}
"	バリア ド顆粒水和剤	4,000	"	"	バリア ド顆粒水和剤	4,000	"
"	ベンレート水和剤	2,000	"	"	ペフラン液剤	1,000	"
"	チオノックフロアブル	500	"	"			

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
腐らん病	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

特に差は見られない。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対照区と同等のため。

実用性 対照区と同等のため。

使いやすさ 対照区と同等のため。

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認
2. 対象病害虫 モニリア病・腐らん病
3. 試験内容
- (1)実施場所 藤崎町林崎 (2)実施農家 葛西 健人
- (3)実施支店 藤崎支店 (4)担当者 佐藤 琉乃介
- (5)概要
- 作物名 りんご 品種 シナノゴールド
- 樹 齢 15年 栽植密度 5 m × 3 m 67 本/10a
- 開花日 4月30日 収穫始め 10月15日

- (6)試験構成
試験面積 55 a (試験区 30 a 対照区 25 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
4月19日	マシン油(乳)	200	300 ^{リットル}	4月19日	マシン油(乳)	200	300 ^{リットル}
	バリアード(顆水)	4,000	300 ^{リットル}		バリアード(顆水)	4,000	300 ^{リットル}
	ベルコート(水)	1,000	300 ^{リットル}		ペフラン(液)	1,000	300 ^{リットル}
	トップジンM(水)	1,000	300 ^{リットル}				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
モニリア病	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

対照区と差はなかった

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対照区と同等のため。

実用性 対照区と同等のため。

使いやすさ 対照区と同等のため。

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認
2. 対象病害虫 腐らん病、モニリア病
3. 試験内容
- (1)実施場所 弘前市悪戸 (2)実施農家 山形 弘晃
- (3)実施支店 弘前南支店 (4)担当者 今 修平
- (5)概要
- 作物名 りんご 品種 ふじ
- 樹 齢 15年 栽植密度 5 m × 3 m 67 本/10a
- 開花日 4月27日 収穫始め

(6)試験構成

試験面積 20 a (試験区 10 a 対照区 10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
4月19日	ハーベストオイル	200	250 ^{リットル}	4月19日	ハーベストオイル	200	250 ^{リットル}
"	バリアード顆粒水和剤	4,000	"	"	バリアード顆粒水和剤	4,000	"
"	アプロードFL	1,000	"	"	アプロードFL	1,000	"
"	ベルコート水和剤	1,000	"	"	ベフラン液剤	1,000	"
"	トップジンM水和剤	1,000	"				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
腐らん病	少ない	少ない	少ない
モニリア病	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

問題なく使用できた。ベフランの代わりが2剤混用なので、一手間多くなる。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	2	3

(2)評価の理由

散布効果 対照剤と同等

実用性 対照剤の代替えとして使用できる。

使いやすさ 対照剤1剤から2剤に増えるので一手間増える。

(3)その他特記事項

ベフラン液剤の代替試験。ベルコート水和剤と混用での検討。

1. 試験目的 防除効果の確認
2. 対象病害虫 黒星病、モニリア病、黒点病、赤星病、斑点落葉病、褐斑病
3. 試験内容
- (1)実施場所 三和 (2)実施農家 芹川 和幸
- (3)実施支店 弘前北支店 (4)担当者 成田 将平
- (5)概要
- 作物名 りんご 品種 ふじ
- 樹 齢 35年 栽植密度 7 m × 8 m 18 本/10a
- 開花日 4月29日 収穫始め
- (6)試験構成
試験面積 20 a (試験区 10 a 対照区 10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
4月28日	ロンセラーフ	3,000	350 ^{リットル}	4月28日	カナメF	4,000	350 ^{リットル}
	カスケードF	4,000	350 ^{リットル}		カスケードF	4,000	350 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
黒星病	無	無	無
褐斑病	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

違いがわからない。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 同等

実用性 同等

使いやすさ 同等

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認
2. 対象病害虫 黒星病、モニリア病、黒点病、赤星病、斑点落葉病、褐斑病
3. 試験内容
- (1)実施場所 東目屋 中野 (2)実施農家 米沢 昇司
- (3)実施支店 目屋支店 (4)担当者 平山 銀
- (5)概要
- 作物名 りんご 品種 シナノゴールド
- 樹 齢 20年 栽植密度 7 m × 7 m 20 本/10a
- 開 花 日 4月28日 収穫始め 11月1日

- (6)試験構成
- 試験面積 60 a (試験区 30 a 対照区 30 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
5月2日	ロンセラ F L	3,000	300 ^{リットル}	5月2日	カナメ F L	4,000	300 ^{リットル}
	カスケード乳剤	4,000	300 ^{リットル}		カスケード乳剤	4,000	300 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
黒星病	無	無	無
褐斑病	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

効果の違いが分からなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 試験区と同等

実用性 試験区と同等

使いやすさ 試験区と同等

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認
2. 対象病害虫 黒星病、モニリア病、黒点病、赤星病、斑点落葉病、褐斑病
3. 試験内容
- (1)実施場所 藤崎町水沼 (2)実施農家 佐藤 香緒利
- (3)実施支店 藤崎支店 (4)担当者 佐藤 琉乃介
- (5)概要
- 作物名 りんご 品種 ふじ
- 樹 齢 20年 栽植密度 9 m × 6 m 19 本/10a
- 開花日 4月29日 収穫始め —

- (6)試験構成
試験面積 70 a (試験区 50 a 対照区 20 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
5月12日	デラン(F)	1,500	300 $\frac{g}{10a}$	5月12日	ミギワ20(F)	4,000	300 $\frac{g}{10a}$
	ミギワ20(F)	4,000			ジマンダイセン(水)	600	
	カスケード(乳)	4,000			カスケード(乳)	4,000	

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
黒星病	無	無	無
褐斑病	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

対照区と差はなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対照区と同等のため。

実用性 対照区と同等のため。

使いやすさ 対照区と同等のため。

(3)その他特記事項

薬価が高い。

1. 試験目的 防除効果確認。
2. 対象病害虫 黒星病、モニリア病、黒点病、赤星病、斑点落葉病、褐斑病
3. 試験内容
- (1)実施場所 大鰐町駒木 (2)実施農家 駒木共防
- (3)実施支店 大鰐支店 (4)担当者 古川 賢一
- (5)概要
- 作物名 りんご 品 種 ふじ
- 樹 齢 25年 栽植密度 7 m × 7 m 20 本/10a
- 開 花 日 4月30日 収穫始め 10月下旬頃

- (6)試験構成
試験面積 40 a (試験区 20 a 対照区 20 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
5月12日	ミギワ20フロアブル	4,000	350 ^g / _{ha}	5月12日	ミギワ20フロアブル	4,000	350 ^g / _{ha}
"	デランフロアブル	1,500	"	"	チオノックフロアブル	500	"
"	バイオマックスDF	500	"	"	バイオマックスDF	500	"

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
黒星病	無	無	無
褐斑病	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

特に差は見られない。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対照区と同等のため。

実用性 対照区と同等のため。

使いやすさ 対照区と同等のため。

(3)その他特記事項